

ドローンの操縦講習会を開催

町内において、大型区画のほ場整備が進み、省力・低コスト農業の実現のため、農業機械の効率的で安全な利用が求められています。

そこで、小山町農業総合推進協議会は、ドローンの効率的かつ安全な活用を推進するため、町内の認定農業者、中山間地域等直接支払交付金制度に取り組む農業者等に対して講習会を令和5年2月に開催しました。

講習会では、農業用ドローンの現状や操作説明、安全・効率的な操作について学びました。



小山町農業委員会「秘密の花園作戦」が優良賞を受賞

静岡県農地利用最適化活動事業で

静岡県農業再生協議会では、農地利用の最適化を推進するため、他の地域の模範として波及効果が期待できる耕作放棄地の再生活動及び農地集積・集約化の推進活動等について表彰を行っています。

この度、小山町農業委員会が実施した「秘密の花園作戦」が「優良賞」を受賞しました。



【写真】令和4年度ふじのくに農地有効活用シンポジウムにて小山町農業委員会が「優良賞」を受賞



【写真】秘密の花園の様子（下谷）

【秘密の花園作戦とは】

荒廃農地やそのおそれのある農地の有効活用を目的とし、比較的低コストで栽培できる蜜源作物やサツマイモなどを作付けする農業生産方法をモデル的に実施しました。

- 第十六号編集委員
(農業政策部会)
- 部会長 池谷 弘
 - 同 小野 麻利子
 - 同 池谷 邦彦
 - 同 勝亦 宏司
 - 同 勝亦 文雄

編集後記

池谷 弘
農業委員の協力を得て多くの活動を町民の方々にお知らせすることができたと思います。

小野 麻利子
商工会からの出向でしたが、改めて農業委員会の重要性を感じました。

池谷 邦彦
三年間お世話になりました。小山町の美田が次の世代、その先までも残るよう願っています。

勝亦 宏司
農地についての考え方が大きく変わる三年間でした。

勝亦 文雄
三年間の農地パトロールを通じ、担当地区の農地の利用状況を把握することができました。農地の活用、保全に努めたいと思います。

おやま 農業委員会 だより

活動する農業委員会



第16号

令和5年6月20日
小山町農業委員会発行
小山町農林課内
電話:0550-76-6121

農業委員会長

3年間を振り返って…



小山町農業委員会長 岩田 正治（原向）
【令和2年7月～令和5年7月】

私は、平成26年に農業委員に就任し、3期（9年間）農業委員を務めさせていただきました。農業委員として活動するうちに、農業の担い手不足や農地の荒廃化等、地域農業が抱える課題を目の当たりにし、将来の農業の在り方や変化する農業情勢に対応できる強い営農活動等、私達農業委員が担う役割について真剣に考えるようになりました。特に会長に就任した3年間は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、活動が制限され、思うような活動ができない中、農業委員・農地利用最適化推進委員の皆様と共に、担い手への農地の集積や、新規取り組みである「荒廃農地の非農地化」等、様々な活動を行うことができ、実績を残すことができました。

会長として努めた3年間、皆様本当にありがとうございました。

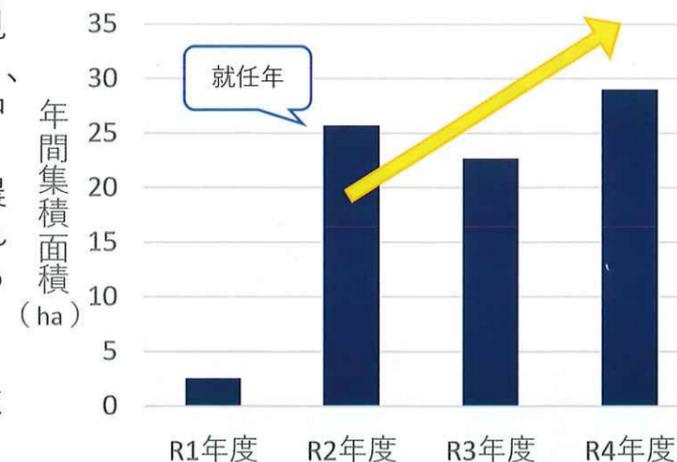
感謝

3年間の農地集積結果(実績)

小山町では、農地等利用の最適化を推進し、農業の担い手に積極的に集約するため、令和2年の農業委員及び農地利用最適化推進員改選に伴い、推進体制を見直し、各委員が連携して推進できるよう、新たに農業最適化部会を農業委員会の中に設置しました。

このことにより、条件の比較的良好な農地については、農地の集積が進み、それまでの農地集積の実績の5倍以上となる25.7ha（令和2年度）、22.7ha（令和3年度）、29.0ha（令和4年度）と農地の集積面積を飛躍的に伸ばすことができました。

担い手への農地集積面積(実績)



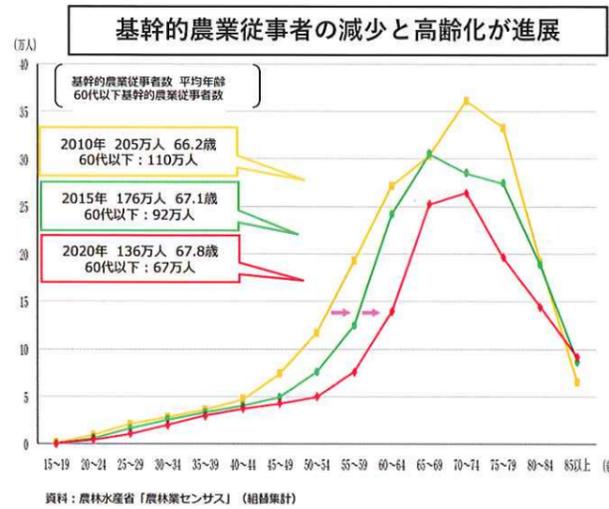
地域計画 町内各地区(7地区)で (人・農地プラン)の策定を行います ▶▶

1. 農地をめぐる現状

- (1) 全国的に高齢化・人口減少が本格化する中で、農業者の減少や耕作放棄地の拡大がさらに加速化し、地域の農地が適切に利用されなくなるおそれがあり、小山町の農業も例外ではありません。
- (2) 生産の効率化や農業の成長産業化に向け、農地が利用されやすくなるよう、地域の目指すべき将来の具体的な利用の姿等を描き、分散錯圃の状況を解消して、農地の集約化等を進めるとともに、人の確保・育成を図る措置を講ずることが必要です。

2. 地域計画 (人・農地プラン) の策定

- (1) 「地域計画」の策定方法について
地域における農業の将来の在り方等について、協議の場を設け、その結果を踏まえ町が策定
- (2) 地域計画策定期限
令和7年3月末まで
- (3) 町内7つの地区に分かれて策定



3. 地域における協議内容

- (1) 農業の将来の在り方について
(例) 米から野菜等の高収益作物への転換
- (2) 農業上の利用が行われる区域について
今後も農業上の利用が行われる農用地の区域について協議
- (3) その他必要な事項について
(例) ・農用地の集積・集約化の方針
・基盤整備事業への取組方針
・多様な経営体の確保・育成の取組方針
・農作業受託の活用方針等



今後、地区協議の場に **積極的な参加**をお願いします

小山町農業委員会 政策・振興・最適 3部会活動報告

農業政策部会

【主な活動】
農業委員活動の広報、情報収集の取組みに関する事。

農業政策部会では、「おやま農業委員会だより」を年間2回発行することで、農業振興に係る情報や町農業委員会の様々な取り組みを町内の農家に向け発信しました。

その他にも小山町農業版BCP(事業継続計画)の検討など、農業の振興に寄与しました。



農業振興部会

【主な活動】
地域農業の振興や産地化推進作物の育成などの取組みに関する事。

農業振興部会では、足柄ふれあい農園を利用し、農業初心者に向けた野菜の植え方や農機具の使い方等の講習会を行い、将来の農業の担い手の育成を行いました。

また、遊休農地を活用し、蜜源作物の栽培を行う「秘密の花園作戦」を展開するなど、多岐にわたる事業を力強く推進しました。



農業最適部会

【主な活動】
農地の保全・有効活用などの取組みに関する事。

農業最適部会では、B農地(再生利用困難な農地)の非農地化(地目を農地から外す取組み)を行い、約4haの農地を山林等の現況に合った地目に変更する手続きを行いました。



新体制 新任委員20名でがんばるぞ！

小山町農業委員会 始動

(任期：令和5年7月20日～令和8年7月19日)

(農業委員11名、農地利用最適化推進委員9名)



農業委員会の主なしごと

農業委員会定例会における、農地の売買・賃貸借・転用等について審議・許可、農地の保全・無断転用の防止・農地の有効活用などの取組

農業委員会部会活動について

- **農業振興部会**
地域農業の振興や産地化推進作物の育成等
・農業初心者向けの作付け講習会
・遊休農地を活用した取組み
- **農業政策部会**
農業委員会活動の広報、情報収集等
・農業委員会だよりの発行
・国・県の政策の研究
- **農業最適部会**
農地の保全・有効活用等
・B農地の非農地化
・地域計画の実行

農業委員の地区割

農業委員

小山地区…3名
足柄地区…1名
北郷・須走地区…7名

農地利用最適化推進委員

小山地区…2名
足柄地区…2名
北郷・須走地区…5名

このため農業委員会では10年後、誰が農地を利用するのか一筆毎に地図に示す「目標地図」を作成することとなり、町内にいくつものエリアを設定し「地域計画」を策定することとなります。地域の農地を守ることは地域全体を守ることにつながると思います。農家の皆様方のご協力をお願い申し上げます。

小山町農業委員会だよりの創刊号を発行するにあたり、ご挨拶申し上げます。日頃より農業委員会の活動にご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。農業経営基盤強化促進法の改正に伴い、このたび町では「今、耕されている農地を耕せるうちに、耕せる人へ次の農業者にバトンをつなぐ」という国の方針に従い、効率的かつ安定的な農業経営が地域の農地利用に占める面積の割合を80パーセントにすることを目標に、おおむね10年間にわたって育成すべき農業経営体や農家数など主要な指標を示した基本構想を改正しました。

ごあいさつ



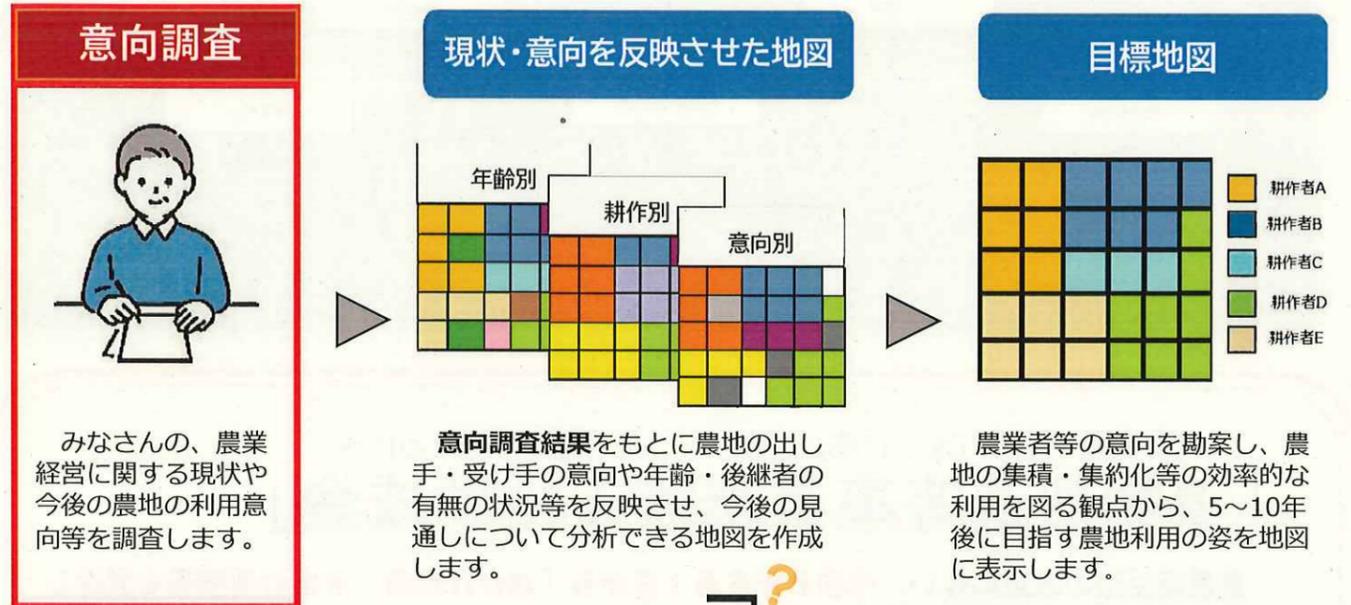
小山町農業委員長
小野 巖

5年後、10年後に農業従事していただけますか？5年後、10年後に担い手がいますか？
高齢化や人口減少が本格化する中、農業を営む家が減り、耕作されない農地、いわゆる耕作放棄地が増えていく恐れがあります。
これは小山町も例外ではありません。
このような状況を少しでも解決すべく、地域の話し合いにより、地域が目指す将来の農地利用の姿を皆で考え、語り、地図に表示していく場を作ります。

10年後の農地どうするの？

みんなで作る 地域計画 将来の地域農業

「地域計画」作成に向けた今後の流れ



町 内で目指すべき将来の農地利用の姿を明確にするための計画を「地域計画」といいます。
地域の現状や課題を踏まえ、地域の将来の在り方や、5～10年後に目指すべき具体的な利用の姿を描いた農地の地図（目標地図）を定めます。

「地域計画」とは 具体的にどんな計画



将来の地域農業を座談会で語ろう



座談会の様子（R5.8.27：静岡市）

座談会 座談会を通じて地域農業の夢を皆で語り合いませんか。
12月に町内に農地を所有する皆様のもとへお配りした農地利用意向調査結果をもとに、2月頃、座談会を開催します。
座談会では、5～10年後の地域農業について参加者同士が語り合い、皆が目指したい地域農業の将来像を描きます。
これからの農業の在り方について皆で語り合うチャンス！
多くの皆様の積極的な参加をお待ちしています。